

科目名	運動学演習						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	園田 剛之		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	1.運動学で学んだことを再度復習し、運動器の構造および機能について理解を深める。2.各関節の構造を理解し、関節可動域の制限因子について理解する。3.代表的な疾患の特徴を運動学的に説明できるようになる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					運動器の構造および機能について説明できる	
	○	○				骨の運動学と解剖的な構造の仕組みを理解することができる	
		○				代表的な疾患における運動学的な見解が出来る	
			○			理学療法における評価・治療の運動学的な説明ができる	
			○			安全に配慮して実習を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:(1)基礎運動学 第6版 齋藤 宏・中村隆一著 医歯薬出版 (2)筋骨格系のキネシオロジー 嶋田 智明・平田総一郎著 医歯薬出版 参考文献:カパンジー機能解剖学 I、II、III 塩田悦仁著 医歯薬出版 骨格筋の形と触察法 第2版 河上敬介・磯貝 香 編 大峰閣						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	総論:オリエンテーション、力学の基礎、運動学の基礎、運動器の構造と機能など 総論:力学の基礎、運動学の基礎、運動器の構造と機能など			教科書の予習をしておく。		
	2	肩甲帯、肩関節:機能解剖学 肩甲帯、肩関節:機能解剖学			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	肩甲帯、肩関節:肩関節障害① 関節可動域制限 肩甲帯、肩関節:肩関節障害② 筋力			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	肘関節、前腕:機能解剖学 肘関節、前腕:肘関節障害(代表的な疾患)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	手・指関節:機能解剖学 手・指関節:手・指関節障害(代表的な疾患・変形など)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	脊椎(頸椎・胸椎・腰椎):機能解剖学 脊椎(頸椎・胸椎・腰椎):機能解剖学			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	脊椎:腰部安定化とそのメカニズム			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	股関節:機能解剖学			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	股関節:股関節障害の捉え方(整形外科的検査法の意義、筋の特性など)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	膝関節:機能解剖学			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	膝関節:膝関節障害の捉え方(靭帯損傷・半月板損傷 など)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	足関節:機能解剖学			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	足関節:足関節障害の捉え方(捻挫、アキレス腱断裂 など)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	文献抄読			授業資料のまとめを復習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)自己学習内容を発表する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				80%
	実習レポート		◎	○	○		10%
	発表		○		◎		10%
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	1.基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。2.様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。3.細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
	○					様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
	○					細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	・教科書:医学書院 系統看護学講座 病理学(疾病の成り立ちと回復の促進1)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	細胞・組織・器官			教科書の予習をしておく。		
	2	病理学概論(病因と組織変化)			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	3	内因と外因・病気の分類			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	4	先天異常、遺伝子・染色体異常			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	5	代謝障害と細胞および組織変化(変性と壊死)			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	6	脂質、タンパク質代謝障害			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	7	タンパク質代謝における肝臓と腎臓の役割			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	8	ビリルビン代謝障害、循環障害1(充血、うっ血、貧血、虚血)			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	9	循環障害2(血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫)			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	10	炎症、免疫			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	11	アレルギー			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	12	免疫不全、移植			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	13	腫瘍1			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	14	腫瘍2			教科書の予習をしておく。 前回の教科書内容の復習をしておく。		
	15	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト						20%
履修上の注意							

科目名	臨床検査薬理学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤廣美・桑岡 勲・片岡彩子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	本科目は、薬物療法における基礎知識の習得や、医療機関で一般的に行われている画像所見や血液検査の種類、検査結果の解釈を理解することを目的とする。また正常所見から代表的疾患における画像所見の相違を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					薬についての基礎知識や体内でどのように吸収、代謝、排泄されるのかを知る。	
	○					汎用される薬物の作用機序について理解し説明できる。	
	○					主作用、副作用の両面から薬物と生体の相互採用について学習し、薬理学全般を理解する。	
	○					臨床上用いられる血液検査、心電図、画像検査などその目的・意義・方法を理解し説明できる。	
○					代表的疾患の画像所見を読解できる。		
テキスト・教材 参考図書	・教科書:標準整形外科学 医学書院 PT/OT/STのための脳画像のみかたと神経所見 医学書院 15レクチャーシリーズ ・理学療法テキスト 内部障害理学療法 呼吸 中山書店						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	薬理学の導入			担当の範囲を予習してまとめる		
	2	薬物の体内動態			担当の範囲を予習してまとめる		
	3	高血圧治療薬			担当の範囲を予習してまとめる		
	4	抗炎症薬			担当の範囲を予習してまとめる		
	5	臨床検査とその役割(一般検査・血液検査の読み方)			担当の範囲を予習してまとめる		
	6	生理機能検査(心電図の読み方)			担当の範囲を予習してまとめる		
	7	生理機能検査(肺機能検査の読み方)			担当の範囲を予習してまとめる		
	8	画像診断装置(X線,CT,MRI)の基礎知識			担当の範囲を予習してまとめる		
	9	中枢神経疾患の画像診断(総論)脳出血			担当の範囲を予習してまとめる		
	10	中枢神経疾患の画像診断(各論)脳梗塞			担当の範囲を予習してまとめる		
	11	中枢神経疾患の画像診断(各論)腫瘍・変性疾患			担当の範囲を予習してまとめる		
	12	運動器疾患の画像診断(総論)椎体			担当の範囲を予習してまとめる		
	13	運動器疾患の画像診断(各論)四肢関節			担当の範囲を予習してまとめる		
	14	内部障害の画像診断 循環器疾患・呼吸器疾患			担当の範囲を予習してまとめる		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	整形外科学 I						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	九州大学整形外科教室		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	整形外科領域の疾患・治療法を理解する。 ・理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・理学療法が関わる障害が、どのような疾患から起因するかを知る。 ・整形外科疾患の成り立ちを知り、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・整形外科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				理学療法に必要な医学情報、病気の成り立ちを説明できる。	
	○	○				整形外科疾患から起因する、理学療法が関わる障害について説明できる。	
	○	○				整形外科疾患の生理学的見解ができる。	
	○	○				理学療法領域に多い、整形外科疾患の症状を説明することができる。	
	○	○				理学療法の治療上での各疾患ごとのリスク管理を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理学療法学 作業療法学 専門基礎分野 標準整形外科学 (医学書院) 標準整形外科学 (Standard Textbook) (医学書院)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 整形外科基礎知識			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	2	第2章 運動器の評価及び検査法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	3	第3章 整形外科的治療法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	4	第4章 炎症性疾患(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	5	第4章 炎症性疾患(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	6	第5章 代謝・内分泌性疾患・退行性疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	7	第6章 先天性骨関節疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	8	第7章 循環障害と壊死性疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	9	第8章 骨・軟部腫瘍			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	10	第9章 神経・筋疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	11	第10章 脊椎の疾患(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	12	第10章 脊椎の疾患(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	13	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。		
	14	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。		
15	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	内科学 I					
科目名(英)	Internal Medicine I					
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・内科疾患の症状を理解することで、治療上でのリスク管理を理解する。 ・理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				内科疾患の現状を説明できる。
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。
	○	○				理学療法士が関わる内科疾患の治療実践を説明できる。
	○	○		○		理学療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 参考文献:私が投稿し掲載された医学に関する諸文章					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	序説・第1章 内科学の概念 内科的診断			生理学教科書も併せて予習しておく。	
	2	第2章診断学 内科的診断の意義と目的 診察・検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	3	第3章症候学 発熱・食思不振・悪心・易感染性・意識障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。	
	4	第3章症候学 めまい・浮腫・頭痛・ショック			まとめプリントを使用して復習しておくこと。	
	5	第4章循環器 総論・検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	6	第4章循環器 心筋・弁・中隔・心不全			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	7	第4章循環器 不整脈・末梢血管			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	8	第5章呼吸器 総論・検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	9	第5章呼吸器 COPD・間質性肺炎			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	10	第5章呼吸器 癌・循環・横隔膜			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	11	第6章消化器 総論・検査・食道			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	12	第6章消化器 胃・切除胃・腸			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	13	第7章肝胆脾 解剖・生理・腹膜・検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	14	第7章肝胆脾 肝炎・肝硬変・膵胆道・腹膜			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	15	まとめ				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験(筆記)	◎	◎			
履修上の注意						

科目名	神経内科学 I						
科目名(英)	Neurology						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法が関わる障がいがあるが、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		理学療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学(補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。			教科書で予習しておく。		
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	3	脳XII神経(前編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	4	脳XII神経(後編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	6	意識障害、記憶			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	8	錐体外路と不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	9	失調症の検査と診断			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	10	高次脳機能障害1(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	11	高次脳機能障害2(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	12	嚥下機能、気管切開、胃ろう			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	13	まとめ①(1回~6回)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	14	まとめ①(7回~12回)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
15	総まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	精神医学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	島田 洋		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	本科目では、精神機能の理解から精神疾患の特徴について具体的な症状を含め説明していく。また精神疾患に対する治療法、経過からリハビリテーションにおける対応について学ぶ。また保健、福祉制度について理解していく。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			精神機能や代表的な精神疾患の概要について説明できる。		
	○	○			代表的な精神疾患の症状・治療・予後について説明できる。		
	○	○			精神疾患の方々への医療福祉制度について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:上野武治著、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	精神障害の概念・分類			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	精神機能、精神症状(1)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	精神機能、精神症状(2)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	脳器質性精神障害、症状性精神障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	精神作用物質による障害、てんかん			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	統合失調症 (1)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	統合失調症 (2)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	気分(感情)障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	神経症性障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	パーソナリティ障害など			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	知的障害・発達障害			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	心身医学、ライフサイクルにおける精神医学			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	治療とリハビリテーション			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	精神保健医療、福祉、メンタルヘルス			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
15	まとめ講義						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	保健医療福祉制度論						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	山川 泰		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	保健・医療だけではなく、社会保障・社会福祉の理念と制度を体系的に学ぶ。さらに、保健・医療・福祉の法制度の現状と課題についての認識を深めるとともに、生活問題・社会問題把握の視点を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○					
	目標						
	社会保障・社会福祉について理念を体系づけて説明ができる						
	それぞれの制度について、その対象と制度の代表的な内容について説明ができる						
それぞれの制度の利用にあたっての窓口と例外について説明ができる							
それぞれの制度の連携した利用について説明ができる							
テキスト・教材 参考図書	教科書:保健医療福祉制度論 府川哲夫・磯部文雄(著)(ミネルヴァ書房) 参考文献:よくわかる社会福祉(ミネルヴァ書房) よくわかる医療福祉(ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会保障・社会福祉の理念と体系 1			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。		
	2	社会保障・社会福祉の理念と体系 2			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	3	社会保障・社会福祉の発展			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	4	公的扶助 生活保護制度			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	5	子どもと家庭福祉の現状と課題 1			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	6	子どもと家庭福祉の現状と課題 2			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	7	障がい者福祉の現状と課題 1			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	8	障がい者福祉の現状と課題 2			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	9	高齢者福祉・介護保険 1			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	10	高齢者福祉・介護保険 2			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	11	衛生・保健サービス			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	12	保健・医療制度の現状と課題1			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	13	保健・医療制度の現状と課題2			配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。		
	14	まとめ					
15	試験対策						
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○					80%
	レポート	○					20%
履修上の注意							

科目名	日常生活活動学総論						
科目名(英)	activities daily living						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河元 岩男		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	1. 「ADLの概念と範囲」を理解する。 2. 「ADLの評価」の意義・目的・実施方法を理解する。 3. 補装具、基本的動作介助について理解し実施できる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				日常生活活動学の概念、範囲、項目、理学療法の中での位置づけを説明できる。	
	○	○				日常生活活動学とICF、日常生活活動学とQOLのそれぞれの関係を説明できる。	
	○	○	○	○		日常生活活動学の評価について理解し実践できる。	
	○	○	○	○		日常生活活動学における補装具の種類と活用法について理解し実践できる。	
	○	○	○	○		日常生活活動学における基本動作と歩行について理解し指導できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)細田多穂:日常生活活動学テキスト、第2版、南江堂 2)飛松好子:新イラストによる安全な動作介助のてびき、第3版、医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	理学療法におけるADLの位置づけ・概念・範囲			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。		
	2	QOLの概念・IL運動の概念・ADL指導(ICFとICIDH・「できるADL」と「しているADL」)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	3	評価の意義・目的、評価基準、尺度・評価に際しての留意点・実用性の考え方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	4	量的評価と質的评价・日常生活活動評価とその実際			小テストを復習しておくこと。		
	5	FIMとBarthel 理論			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	6	FIMとBarthel グループワーク			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	7	身の回り動作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	8	基本的動作 意義、目的、臥位・寝返り			小テストを復習しておくこと。		
	9	基本的動作 起き上がり			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	10	基本的動作 立ち上がり			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	11	基本的動作 移乗			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	12	補装具 車椅子			小テストを復習しておくこと。		
	13	補装具 杖			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	14	補装具 歩行器			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 振り返りとしてデイリーノートを提出すること。		
	15	総まとめ			授業内容を振り返り、疑問を整理しておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記、実技)を実施する。(2)授業の中で小テストを3回実施する。(3)デイリーノートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				40%
	定期試験(実技)	○	○	◎	○		20%
	小テスト	◎	◎				30%
	デイリーノート	◎	◎		○		10%
履修上の注意	定期試験には実技テストも含まれます						